

付録 A. 用紙の仕様

A.1 用紙規格

単票、連続用紙および葉書が使用できます。

用紙の種類と給紙方法についてまとめると、下表のようになりますので、用紙の使用の際の参考にしてください。

- 連続用紙の複葉紙は、オプションの連続用紙送り機構を使用してください。
また、特に紙ホチキス紙は、専用台を使うボトム・フィードに限ります。
詳細は、次項以降を参照してください。

● 単票

給紙方法	使用できる用紙のサイズと連量		
	用紙サイズ	連量	複葉紙
単票手差しガイド	A 5 A 4 A 3 B 5 B 4 葉書*	45 ~ 110 kg	オリジナル + 4 まで
自動給紙機構による自動給紙	A 5 A 4 B 5 B 4 葉書	52 ~ 77 kg 官製葉書相当	使用不可
自動給紙機構付きの手差し	A 5 A 4 A 3 B 5 B 4 葉書*	45 ~ 90 kg	オリジナル + 4 まで

注) * 官製葉書相当の連量まで使用できます。

● 連続用紙

給紙方法	使用できる用紙のサイズと連量		
	用紙サイズ	連量*	複葉紙
内蔵トラクター・フィード	3 ~ 16 インチ	45 ~ 70 kg	使用不可
プッシュ/プル・フィード	3 ~ 16 インチ	45 ~ 70 kg	オリジナル + 4 点糊止めのみ
ボトム・フィード	3 ~ 16 インチ	45 ~ 135 kg	オリジナル + 4 点糊止め、 両側紙ホチキス

注) 連量はオリジナルのみを示します。

用紙に関する注意

用紙を大量に購入して使用する場合には、注文する前に必ず試し印刷をしてください。

用紙が正しく送られることと、印刷が明瞭であることを確かめてください。

- 極端に薄い紙や厚い紙は、紙送り機構の相違により5577とは同等の印刷ができません。
使用用紙を確認の上、購入してください。
- 葉書への印刷が可能です。ただし、用紙のセット位置や方法が他の用紙と異なりますので注意してください。

次のような用紙を使用すると、紙送りが不安定になり、紙づまりや用紙折れ、および印刷ずれを起こす場合がありますので使用しないでください。

- 糊づけ面が露出しているもの、波打っているもの、はがれているもの
- 金属のついている紙
- 切り抜き部分や窓のある紙（とじ穴付用紙も含む）
- 浮彫りのある紙
- 折りたたんだ紙
- 紙の端または角が切れていたり、折れている紙
- 極端に薄い紙または厚い紙（用紙規格を満たさないもの）

注）複葉紙の場合、オリジナルを含めて5枚以内で、用紙厚最大0.30 mm を超えるものは使用できません。

- 小さすぎる紙や大きすぎる紙（用紙規格を満たさないもの）
- 湾曲した紙

注）高温、多湿の場所での用紙の保管はカールやシワの発生の原因となりますので避けてください。用紙がカールしている場合は、用紙を平らにするように逆にさばいてカールがなくなるようにして使用してください。

なお、用紙は白色上質紙を使用してください。

また、以下のような用紙を使用する場合は、事前に十分な印字テストをしてください。

- ラベル紙（用紙を曲げるとラベルがはがれやすいもの）
台紙上または台紙とラベル紙とをまたぐ印刷は避けてください。
- 封筒
- 紙ホチキスを使用している複葉紙
（できるだけ連続用紙送り機構を使用し、ボトム・フィードで使用してください。）

単票

適合する用紙の大きさは、次の種類です。

- はがきサイズ, A 5, B 5, A 4, B 4, A 3

用紙連量と用紙厚調整の関係については、「3.7 用紙厚調整の仕方」を参照してください。

注) 自動給紙機構を使用している場合、A 3 横サイズ of 用紙は自動給紙できません。手差しモードにして差し込んでください。

また次の3つの条件を満たす用紙であれば使用できる場合があります。その用紙を使用する場合には、事前に印刷作業に適することをテストする必要があります。

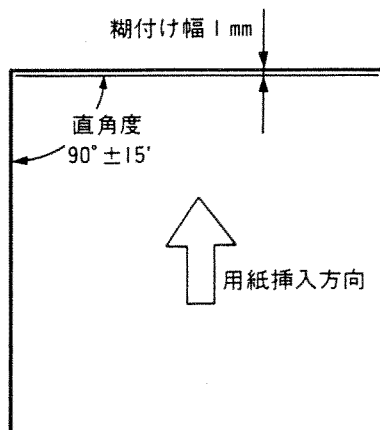
- 用紙幅 : 100 ~ 420 mm
- 用紙長 : 100 ~ 364 mm
- 縦横比 : $1/\sqrt{2} \sim \sqrt{2}$

その他の制限

- トレーシング・ペーパー等の透明度の高い用紙は使用できません。
- 用紙の縦と横の直角度は、 $90^\circ \pm 15'$ 以内にしてください。
- 事前印刷のインクはできるだけ薄くしてください。特に黒インクの事前印刷は必ず試し印刷をして、用紙が正しく送られることと、印刷が明瞭なことを確認してください。
- 自動給紙機構による自動給紙時には、逆改行が1/2インチまでしかできません。それ以上逆改行すると用紙づまりの原因となります。
- ミシン目の入った単票を使用すると紙づまりなどを起こす原因となりますので避けてください。
- 複写紙の種類は、感圧紙および裏カーボン紙が使用できます。
- 複写枚数は、オリジナルを含めて5枚以内ですが、用紙連量によって異なります。「3.7 用紙厚調整の仕方」を参照してください。また、オリジナルと複写紙で、大きさの異なる用紙は使用できません。
- 複葉紙の糊付けは、用紙下端に沿って幅1mm以上にしてください。

注) 糊付けが不十分、極端に固い、波打ち状態である場合は、用紙づまりの原因となります。

複葉紙の糊付け規格



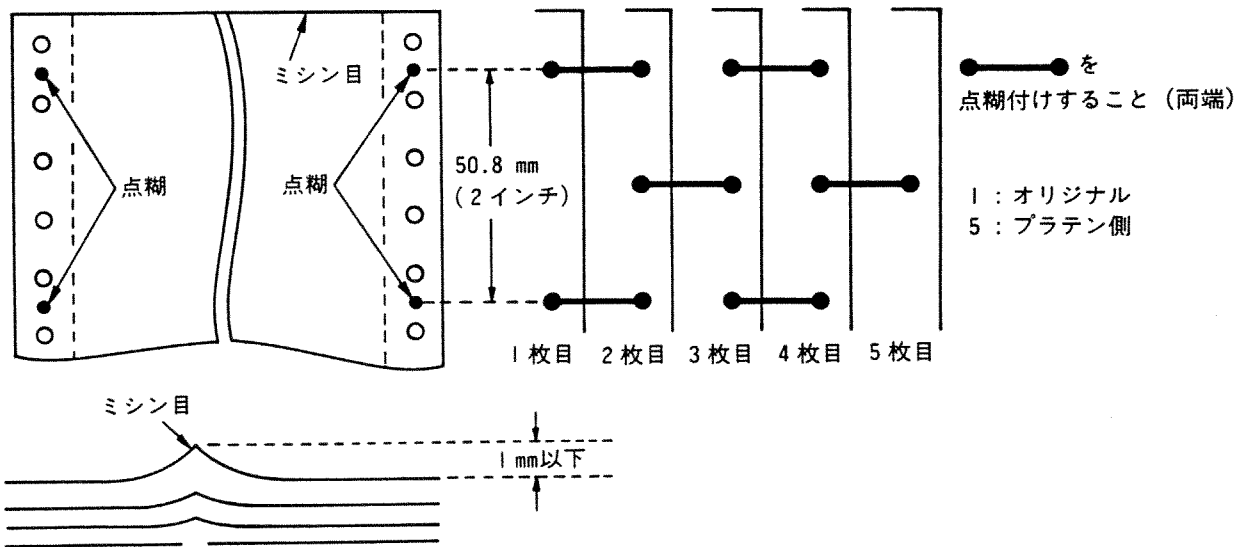
連続用紙

連続用紙は内蔵トラクターまたは連続用紙送り機構にセットして印刷します。
適合する用紙の大きさは、次の範囲です。

- 用紙幅 76 ~ 406 mm (3 ~ 16 インチ)
- ミシン目の距離 (ページ長) 50 ~ 356 mm (2 ~ 14 インチ)
- 用紙連量と用紙厚調整の関係については「3.7 用紙厚調整の仕方」を参照してください。

その他の制限

- トレーシング・ペーパーなど透明度の高い用紙は使用できません。
- オリジナルと複写紙で大きさの異なる用紙は使用できません。
- 複写紙の種類は、感圧紙、裏カーボン紙、中カーボン紙が使用できます。
- 複写枚数は、オリジナルを含めて5枚以内ですが、用紙連量によって異なります。
- 事前印刷のインクはできるだけ薄くしてください。特に黒インクの前印刷は必ず試し印刷をして、用紙が正しく送られることと、印刷が明瞭なことを確認してください。
- 複葉紙の糊付けは、用紙両端を点糊付けしてください。(下図参照) 糊付けは、均一でかつ著しいしわがないように注意してください。
また、複葉紙のミシン目のふくらみの高さは、1 mm以下になるようにしてください。(下図参照)



- 複葉紙には、上記のような点糊付けの他に、紙ホチキス用紙があります。紙ホチキス用紙とは3mmぐらいのスリット状の切れ込みを数本入れて（これが点糊の1個に対応する）、複数の紙を固定したのですが、上下の紙を固定する能力は糊付けに比べて劣ります。

両側紙ホチキス用紙はボトム・フィードのみにて使用可能となります。

やむをえず片側紙ホチキス用紙を使用する場合には、必ず事前にテストをしてからご使用ください。用紙の種類によっては用紙づまりや印字ずれを起こすことがあります。

- ボトム・フィード時は、機構上逆改行はできません。

A.2 印刷の範囲

印刷範囲とは、良好な印字品質を得るためには印字してはならない範囲を示すもので、物理的な印刷可能範囲とは必ずしも一致しません。

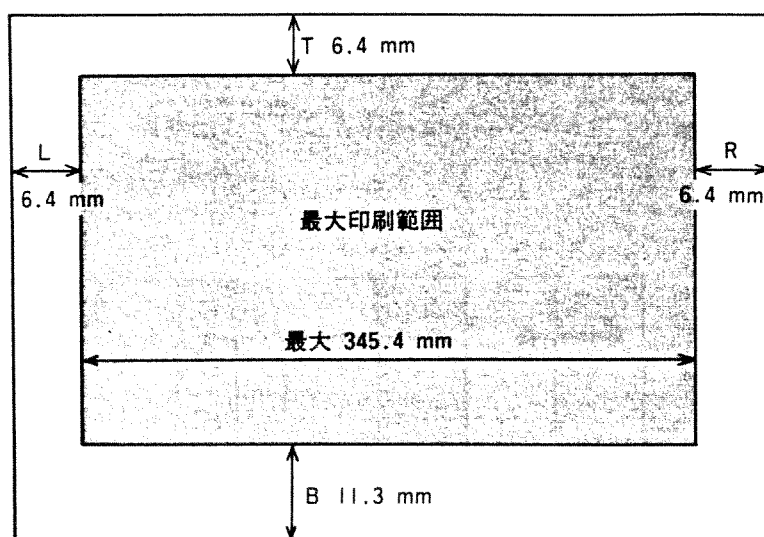
注) 物理的な印刷可能範囲は、5577とは異なります。

単票の印刷範囲

1行に印刷できる文字数は、ソフトウェアによって異なります。限度は横 2448 ドット (345.4 mm/13.6 インチ) に相当する文字数です。

詳しくは、各ソフトウェアの解説書、ガイドを参照してください。

用紙の端に近い部分に印字すると、用紙にしわがよったり、用紙づまりが起きやすくなります。用紙からはみ出して印字を行うと印字ヘッドが故障することがありますので、下図の印刷範囲内で印刷するようにしてください。



ただし、A3サイズの場合はLが33.0 mmです。

注) ● 用紙左端の印刷開始位置は、用紙ガイドにより6.4～25.4 mmの範囲で設定できます。(A3用紙では33 mmで一定。)ただし、1行の最大印字幅は、345.4 mm (13.6 インチ) です。

- 用紙の先頭行位置は、位置決めスイッチにより、トップ・マージンを6.4mmより下の位置に設定できます。ただし、用紙上端から最初の印刷行までの距離は、ソフトウェアや行送り量によって決まります。

- 最後の印刷行は文字の下端から用紙の下端までの距離を 11.3 mm 以上空けてください。11.3 mm より下に印字可能ですが、これは用紙送り誤差または用紙自体の長さの誤差により一定ではありません。次のページの印字データが下端に印字されないように必ず FF (書式送り) または ESX 0E 00 01 06 (単票排出) を使用してください。

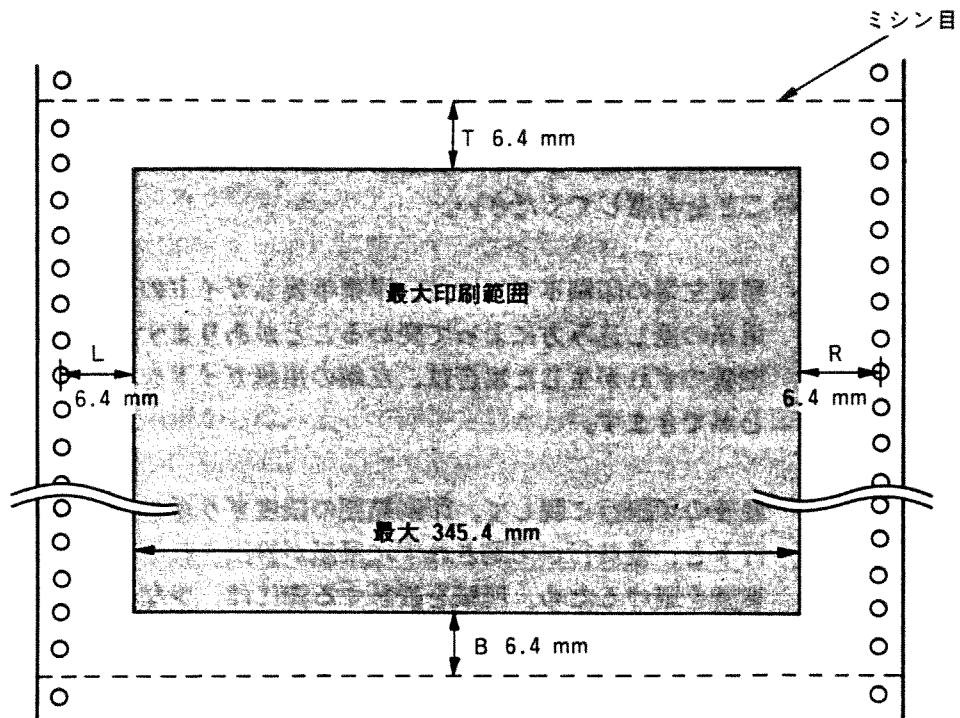
単票設計上の注意

単票の印刷範囲は前ページの図のようになっています。ただし、印刷位置は、種々の要因によりずれることがありますので、単票上の事前印刷のレイアウトには、以下のことを考慮してください。

- 用紙左端の印刷不可領域は、単票手差しガイドの用紙ガイドの位置の設定や、用紙の差し込み方によって変わることがあります。事前印刷用紙に対して印刷位置のずれが生じた場合は、左端の用紙ガイドを移動して若干の補正を行うことができます。
- 最後の印刷行に関して、印刷範囲の限度ぎりぎりまで印刷させるような設計を行うと、最終行が印刷されずに用紙が排出されることがあります。このような事態を避けるため、用紙を設計する際には、少なくとも 1 行分程度の余裕を設けてください。
- 単票の排出に制御コードを用いる場合は、FF (書式送り) または、ESX 0E 00 01 06 または ESC V (単票排出) を使用してください。LF (改行コード) を連続して使用して自動改ページを行わせることは避けてください。

連続用紙の印刷範囲

用紙の端に近い部分に印刷すると、用紙が破れたり、プリンター内につまったりしますので下図の範囲内で印刷をするようにしてください。また、連続用紙のミシン目の近くに印刷すると印刷品質が低下したり印字ヘッドに悪影響を及ぼすことがありますので、ミシン目を避けて印刷してください。

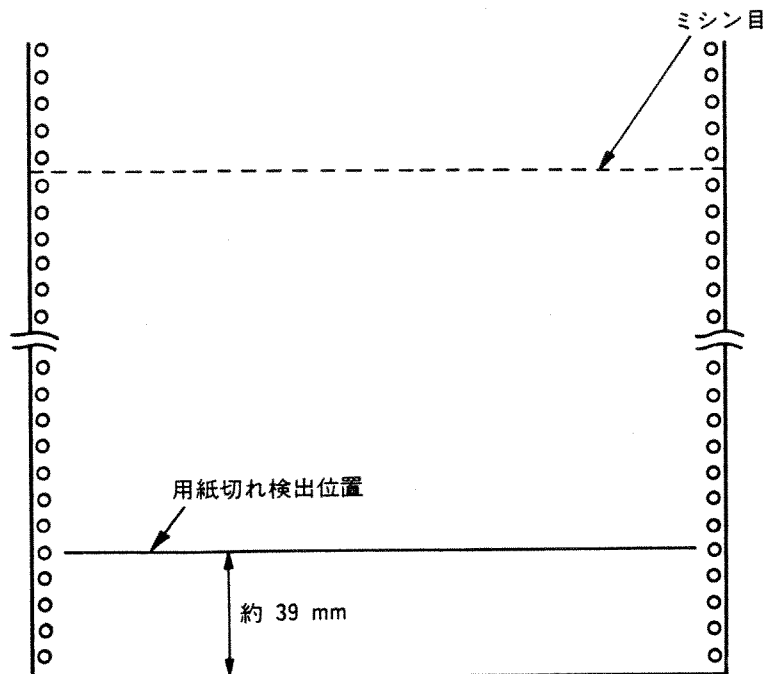


上図の最大印刷範囲は、これを超えて印刷してはならない範囲を示すものであり、この範囲内すべてが常に印刷できるというわけではありません。

- 注) ● 良好な印字品質を得るためには、ミシン目の前後 25.4 mm (1 インチ) の範囲には印刷しないように考慮してください。
- 16 インチ幅の連続用紙では、左マージンが約 25.4 mm (1 インチ) となり、5577 とは異なります。

連続用紙の用紙切れ（用紙終了）

連続用紙モードで用紙切れを検出したとき、プリンターは、最終ページの下端から約39 mm（ボトム・フィードのときは、約33 mm）のところで印刷を自動的に中断します。印刷は不可状態となり、用紙点検ランプが点灯します。



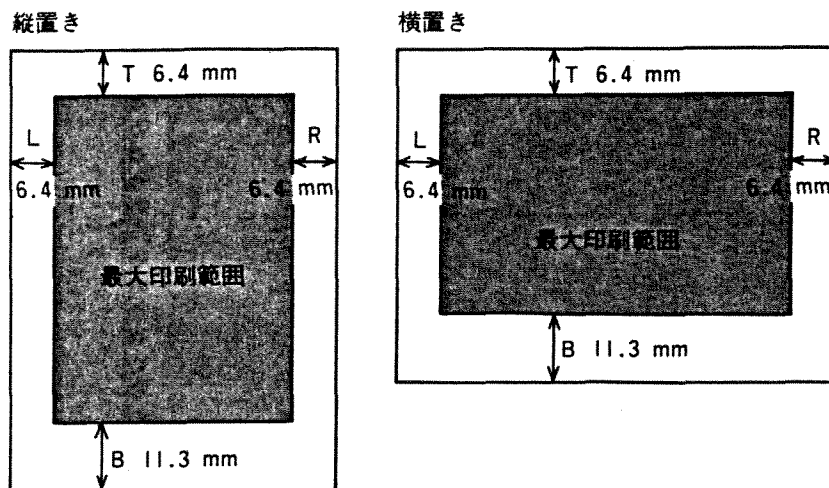
連続用紙が印刷中に用紙切れとなった場合は、印刷業務を取り消し、新しい用紙をセットしてから印刷を再開してください。そのまま最終ページの印刷を印刷可能領域下端まで印刷する場合は、用紙切れ状態（用紙点検ランプが点灯する）で印刷スイッチを押します。1行を印刷し再び用紙切れ状態となります。この操作を繰り返すと論理ページ長（ソフトウェアまたはプリンターの初期設定機能によって設定されたページ長）の最終行まで印刷できますが、以下の注意点を守ってください。

- プリンターが認識しているページ長と実際に使用している用紙のページ長が異なる場合は、途中で印字を終了したり、プラテンに印字する危険がありますので、必ずページ長を合わせるようにしてください。
- 用紙切れページの最後および次ページの最初に LF または ESC %5 コードが設定されている場合は、用紙を再びセットし、次ページを印刷する際に、改行スイッチを使って先頭行位置を合わせてから印刷を始めてください。（次ページの最初の LF、ESC %5 コードは、取り消された形となるからです。）

葉書の印刷範囲

1 行に印刷できる文字数は、通常の単票に比べて狭くなります。

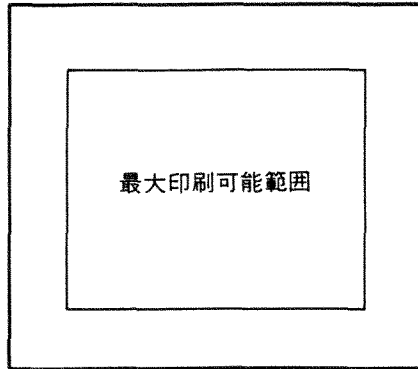
用紙の端に近い部分に印字すると、用紙にしわがよったり、用紙づまりが起きやすくなります。用紙からはみ出して印字を行うと印字ヘッドが故障することがありますので、下図の印刷範囲内で印刷するようにしてください。



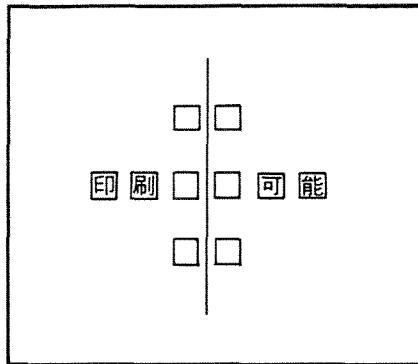
- 注) ● 用紙左端の印刷開始位置は、用紙ガイドにより 6.4 ~ 25.4 mm の範囲で設定できます。
- 用紙の先頭行位置は、位置決めスイッチにより、トップ・マージンを 6.4mm より下の位置に設定できます。ただし、用紙上端から最初の印刷行までの距離は、ソフトウェアや行送り量によって決まります。
 - 最後の印刷行は文字の下端から用紙の下端までの距離を 11.3 mm 以上空けてください。11.3 mm より下に印字可能ですが、これは用紙送り誤差または用紙自体の長さの誤差により一定ではありません。次のページの印字データが下端に印字されないように必ず FF (書式送り) または ESX 0E 00 01 06 (単票排出) を使用してください。

事前印刷の注意

- 事前印刷する場合、最大印字可能範囲ぎりぎりに印字位置がくるような用紙設計は避けてください。(単票：A-6 ページ、連続用紙：A-8 ページ、葉書：A-10 ページ参照)



- 縦罫線を事前印刷する場合は、縦罫線の左右に少なくとも漢字1文字分の余白をとってください。



□: 漢字1文字分の余白

- 横罫線を事前印刷する場合、横罫線の上下に少なくとも1行分の余白をとってください。

